

プロジェクト名	保健体育教師をめざす学生のためのキャリア・デザイン研究プロジェクト ー現職教員の「職能成長」の吟味からー		
プロジェクト期間	平成 22 年度～平成 23 年度		
申請代表者 (所属講座等)	中西純司 (保健体育講座)	共同研究者 (所属講座等)	本多壮太郎（保健体育講座）
取組方法および 取組実績の概要	<p>本研究では、エキスパート・ティーチャーと呼ばれる優れた体育教師 8 名に対して、体育についての考え方や必要な職能に対してインタビュー調査を行い、体育教師に必要で求められる職能について検討した。エキスパート・ティーチャーの選定は、(1) 20 年以上の教職歴を有している、(2) 附属学校教諭や体育研究所長期派遣研修員、主幹教諭、指導主事などの経験を有している、(3) 体育に関する著書、研究論文、紀要、報告書などの執筆に携わった経験を有している、(4) 優れた体育教師であるとの客観的評価を得ている（マイスター、福岡県体育研究所の紹介など）という基準で行った。データとして、質問紙調査による対象者の基本的情報とインタビュー調査による「体育の捉え方・授業哲学について」「運動の技能の高め方」「運動意欲の高め方」「運動が苦手な学習者への対応」「体育教師の職能」に対する考えといった専門的情報を収集した。</p>		
研究成果の概要	<p>エキスパート・ティーチャーの考える体育教師が必要で求められる職能について、収集したデータを分析した結果、職能構成階層カテゴリーが抽出された。各カテゴリーは以下の通りである。</p> <p>「体育授業像」のカテゴリーは、エキスパート・ティーチャーである対象者が体育授業で目指すもの、心掛けていることから成る「授業目標」と、対象者が考える運動特性の捉え方、よい体育授業、体育と生涯スポーツの関係から成る「体育の捉え方」の 2 つのサブカテゴリーから構成された。体育授業実践」のカテゴリーは、対象者による学習者の技能の高め方、運動特性への触れさせ方などの考えや実践的工夫から成る「技能的領域」、学習態度や意欲、学習者同士の関わり方の高め方についての考えや実践的工夫から成る「社会的行動領域」、指導性と主体性のバランスやフィードバックの与え方、学習者の評価、運動の苦手な学習者への対応などについての考えや実践的工夫から成る「学習者との関わり」、対象者が日頃の実践で感じる「体育授業における課題」といった 4 つのサブカテゴリーから構成された。「体育教師の職務」のカテゴリーは、体育教師の責任や体育教師あるいは体育教師を目指す者に対して求められる資質などについての考えから成る「体育教師の職能」と、対象者が経験した困難点や反省点、喜び、さらに、授業や教材研究についての考えなどの対象者の職能形成の土台となり、影響を受けた「職能形成の下地」の 2 つのサブカテゴリーから構成された。</p>		

<p>以上のように、本研究では、エキスパート・ティーチャーの職能に関する考えとして、「体育授業像」「体育授業実践」「体育教師の職務」の3つのカテゴリーを抽出することができた。</p>			
<p>外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法について</p>			
<p>外部資金獲得申請（予定）</p>	<p>科学研究費補助金</p>	<p>研究成果の公表方法（予定）</p>	<p>学会にて発表予定</p>